

クラウドファンディング活用型まちづくりファンド 事例集

令和8（2026）年4月1日現在

一般財団法人 民間都市開発推進機構

MINTO機構とは

MINTO機構は、「民間都市開発の推進に関する特別措置法」(昭和62年法律第62号)に基づく民間の都市開発を推進するための主体として、国土交通大臣の指定を受けた法人です。

昭和62年の設立以来、上記特別措置法及び「都市再生特別措置法」(平成14年法律第22号)に基づく都市開発推進の政策の担い手として、民間都市開発事業に対して安定的な資金支援など多様な支援を行ってきており、今日までの支援実績は、累計で1,400件超、支援総額は2兆1,000億円超となっています。

《MINTO機構の概要》

名 称	一般財団法人 民間都市開発推進機構
所 在	東京都江東区豊洲三丁目3番3号
設立等年月日	昭和62年10月1日 設立 平成25年 4 月1日 一般財団法人へ移行
理事長(代表理事)	榊真一
基本財産	56億円

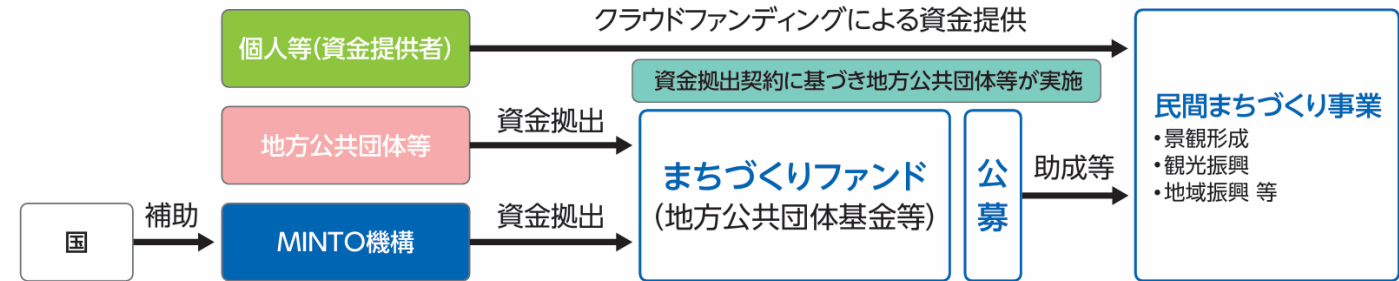
融資	1	共同型都市再構築業務	共同事業者として長期の固定金利による資金を供給します。
	2	グリーンアセット等整備支援業務 (メザニン支援業務)	主に大都市圏の大型プロジェクトにミドルリスク資金を供給します。
出資・ 社債取得	3	まち再生出資・社債取得業務 (まち再生出資業務)	主に地方都市のプロジェクトに対して出資・社債取得による支援を行います。
	4	マネジメント型 まちづくりファンド支援業務	地域金融機関と共にファンドを組成し、そのファンドから民間のまちづくり事業に出資等を行います。
	5	老朽ストック活用 リノベーション等推進型 まちづくりファンド支援業務	金融機関等と共にファンドを組成し、そのファンドから民間のまちづくり事業に出資等を行います。
助成	6	クラウドファンディング活用型 まちづくりファンド支援業務	地方公共団体等と共に資金拠出したファンドから、クラウドファンディングを活用した民間のまちづくり事業等に助成します。
融資	7	まちなか公共空間等 活用支援業務	まちなかで賑わいある交流・滞在空間を形成する事業を行う都市再生推進法人に低利資金貸付を行います。

クラウドファンディング活用型 まちづくりファンド支援業務

活動や取組自体への共感を持つ人々の寄付等の「志ある資金」による資金拠出を受けながら、一定エリア内で自立的に行われる住民等による民間まちづくり事業を支援するもので、次の2つのタイプがあります。

クラウドファンディング活用型ファンド

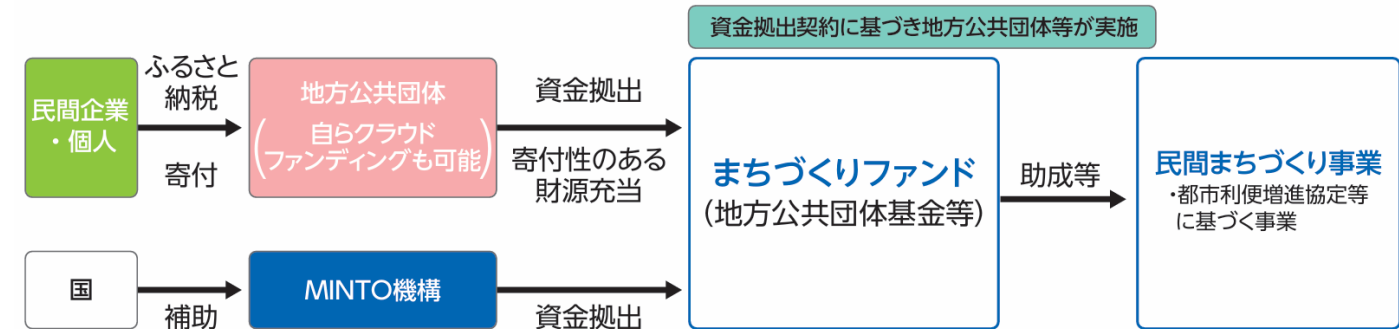
クラウドファンディングを活用して行われる景観形成、まちの魅力アップなどを目的としたNPO、住民等による民間まちづくり事業に対して助成等を行う「まちづくりファンド」に資金拠出します。



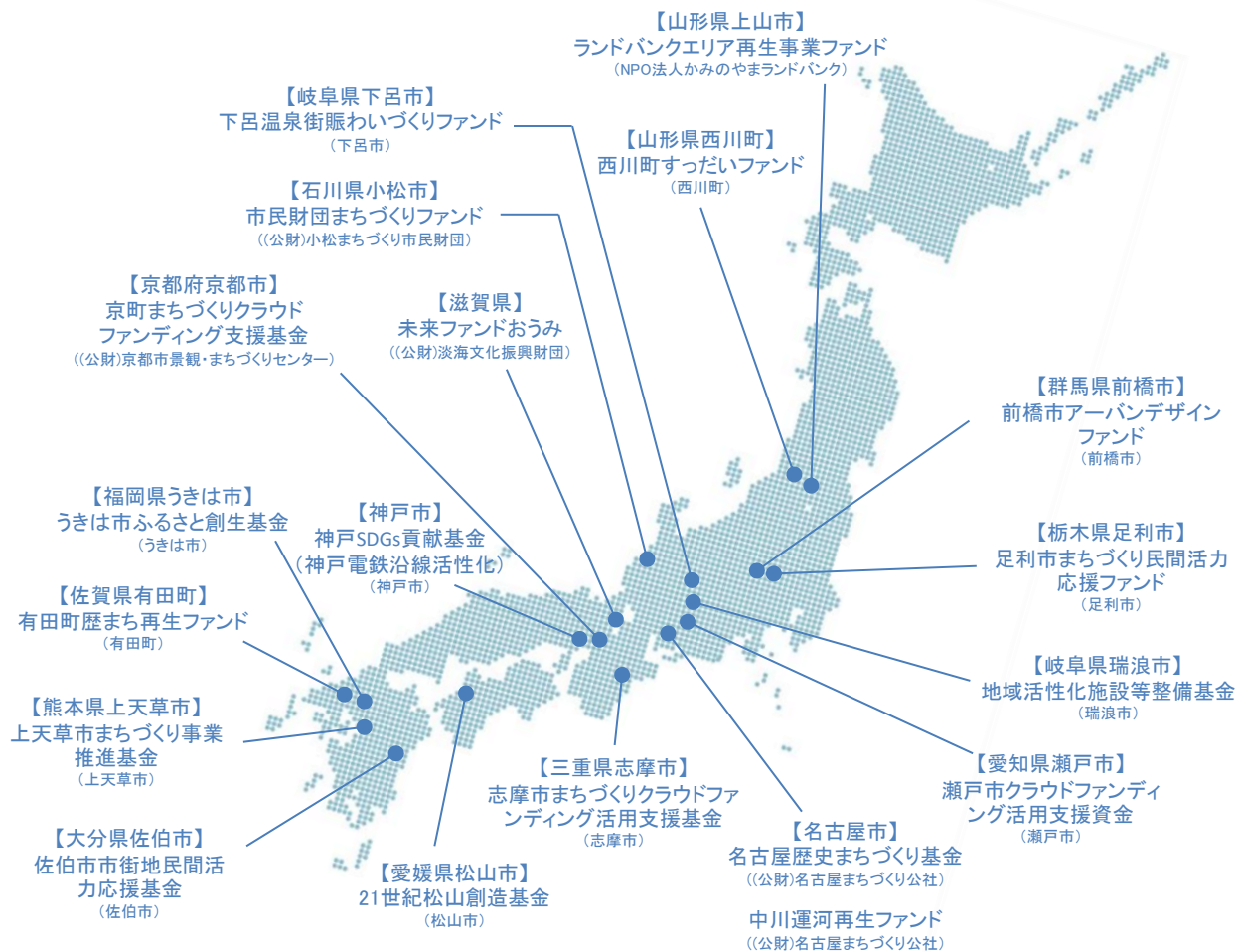
共助推進型ファンド

地方公共団体が、民間企業や個人等から受けた寄付やふるさと納税を財源として、都市再生のための協定※に基づく民間まちづくり事業に対して助成等を行う「まちづくりファンド」に資金拠出します。

※都市再生のための協定：都市利便増進協定、都市再生整備歩行者経路協定、低未利用土地利用促進協定、立地誘導促進施設協定、跡地管理等協定



クラウドファンディング活用型まちづくりファンド支援業務



(単位：百万円)

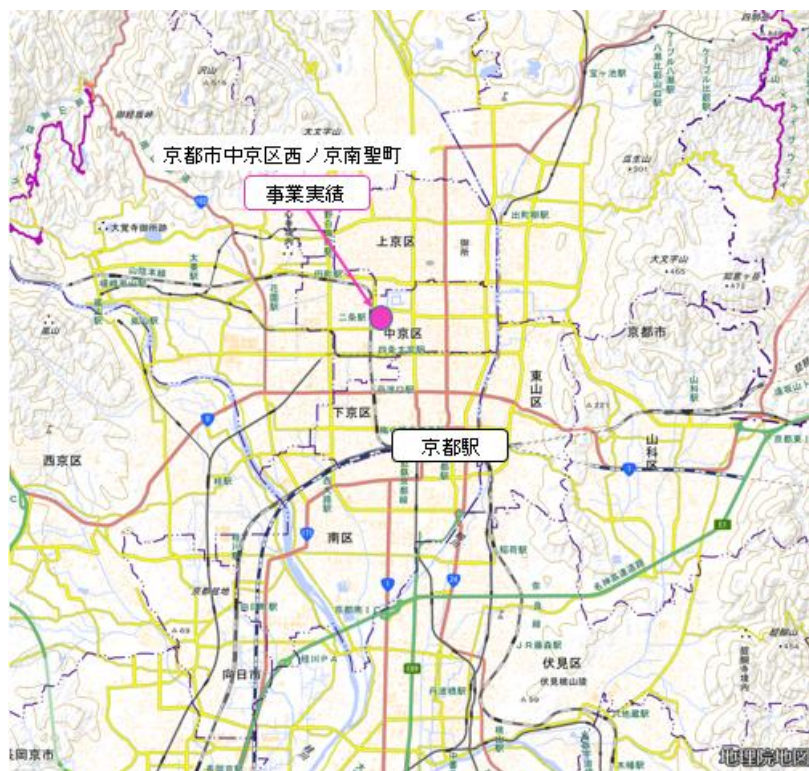
	支援年度	まちづくりファンドの名称	事業主体	助成対象地域	ファンドの資金規模	備考
1	平成27年	京町家まちづくりクラウドファンディング支援基金	(公財)京都市景観・まちづくりセンター	京都市	20	住民参加型(CF活用型)
2	平成27年	未来ファンドおうみ	(公財)淡海文化振興財団	滋賀県	6	住民参加型(CF活用型)
3	平成27年	なごや歴史まちづくり基金	(公財)名古屋まちづくり公社	名古屋市	20	住民参加型(CF活用型)
4	平成28年	上天草市まちづくり事業推進基金	上天草市	熊本県 上天草市	20	住民参加型(CF活用型)
5	平成28年	志摩市まちづくりクラウドファンディング活用支援基金	志摩市	三重県 志摩市	10	住民参加型(CF活用型)
6	平成29年	地域活性化施設等整備基金	瑞浪市	岐阜県 瑞浪市	20	CF活用型
7	平成30年	市民財団まちづくりファンド	(公財)小松まちづくり市民財団	石川県 小松市	20	CF活用型
8	令和元年	うきは市ふるさと創生基金	うきは市	福岡県 うきは市	40	CF活用型
9	令和元年	瀬戸市クラウドファンディング活用事業支援基金	瀬戸市	愛知県 瀬戸市	20	CF活用型
10	令和2年	佐伯市市街地民間活力応援基金	佐伯市	大分県 佐伯市	100	CF活用型
11	令和3年	足利市まちづくり民間活力応援ファンド	足利市	栃木県 足利市	10	CF活用型
12	令和3年	ランドバンクエリア再生事業ファンド	NPO法人かみのやまランドバンク	山形県 上山市	10	CF活用型
13	令和4年	前橋市アーバンデザインファンド	前橋市	前橋市	200	共助推進型
14	令和4年	21世紀松山創造基金	松山市	松山市	30	CF活用型
15	令和5年 令和7年	中川運河再生ファンド	(公財)名古屋まちづくり公社	名古屋市	442	共助推進型
16	令和6年	有田町歴史まち再生ファンド	有田町	佐賀県 有田町	200	共助推進型
17	令和6年	下呂温泉街賑わいづくりファンド	下呂市	岐阜県 下呂市	200	共助推進型
18	令和7年	西川町すっだいファンド	西川町	山形県 西川町	10	CF活用型
19	令和7年	神戸SDGs貢献基金(神戸電鉄沿線活性化)	神戸市	神戸市	11	共助推進型

【1】京町家まちづくりクラウドファンディング支援基金【住民参加型(CF活用型)】

ファンドの概要

支援年度	平成27年（2015年）
事業主体	(公財)京都市景観・まちづくりセンター
助成対象地域	京都市
目 的	クラウドファンディングにより広く投資を募り、京都の歴史・文化の表徴である京町家の、幅広い担い手による再生・活用を支援することにより、京都らしいまちづくりを推進することを目的とする。
助成の対象となる主な事業	「京町家の保存・活用」に関する事業
ファンドの資金規模	2,000万円（京都市1,000万円、機構1,000万円）

【助成対象地域】京都市



出典：地理院タイル(標準図)に事業対象エリア等を追記して記載

【具体的な事業例】

① 大正時代の京町家を旅館として改修・活用

事業者：(株)中蔵
事業地：京都市中京区西ノ南聖町
助成年度：平成28年度
CF調達額：6,300千円（出資金として活用）
ファンド支援：1,000千円

大正時代に建てられた京町家を一棟貸し旅館「蔵や」として改修・活用した本事業は、空き家となっていた京町家を改修することで地域の景観保全に寄与することも目的に実施されました。

平成29年7月に「京都の生活を体験する」というテーマでオープンし、「昔ながらの京町家の美しさをそのままに、快適で使いやすく、楽しい思い出を紡ぐことのできる旅館として再生し、“住み続けられる形”で次世代に継承したい」、「京町家のオーナー、世界中から訪れる旅行者はもちろん、近郊の人々、京都が大好きな人たちに京町家暮らしの魅力を感じてもらいたい」という思いを具現化したものです。



【2】未来ファンドおうみ【住民参加型（CF活用型）】

ファンドの概要

支援年度	平成27年（2015年）
事業主体	（公財）淡海文化振興財団
助成対象地域	滋賀県
目 的	クラウドファンディングを活用するNPO等の市民活動による事業を促進し、滋賀の特色ある地域の活性化を図るとともに、地域を支える寄付文化の創造に資することを目的とする。
助成の対象となる主な事業	古民家・空き家・既存建物を活用した ・世代間コミュニティ形成事業 ・地域活性化拠点整備事業 ・NPO活動拠点整備事業
ファンドの資金規模	600万円（滋賀県300万円、機構300万円）

【助成対象地域】滋賀県



出典：地理院タイル（標準図）に事業対象エリア等を追記して記載

【具体的な事業例】

① 登録有形文化財の旧郵便局を交流拠点として活用

事業者：ヴォーリズ今津郵便局の会
事業地：滋賀県高島市今津町
助成年度：平成28年度
CF調達額：595千円
ファンド支援：509千円

旧今津郵便局は、昭和11年（1936）に建築されましたが、昭和53年（1978）に郵便局が新築移転されて以降、空き家となっていました。

当郵便局は、アメリカから来日し数多くの西洋建築を手がけた建築家ウィリアム・メレル・ヴォーリズの設計による登録有形文化財となっていますが、個人所有であるため、公共の補助で建物を改修することができなかったことから、任意団体である「ヴォーリズ今津郵便局の会」の協力を得て耐震改修工事等を実施しようとしたのですが、資金的な限界もあり、クラウドファンディングにより資金を集め、工事等を実施しました。

現在は、地域の人々の集いの場（コンサート、寄席、講演会、ワークショップ等）を開催として活用されています。



② 古民家を移住者向け仮住居
として改修



事業者 : 特定非営利法人 結びめ
事業地 : 滋賀県高島市安曇川町中野
助成年度 : 平成28年度
C F調達額 : 1,657千円
ファンド支援 : 1,212千円

過疎化が進む、安曇川町中野集落の空き家改修をきっかけに、田舎の楽しい未来を＜想像＝創造＞したいとの思いから開始。

具体的には、①おいしい水と暮らす“小さな空き家”をワークショップ形式で改修、②“空き家改修マニュアル”の作成、③改修した空き家に住みたい“元気な移住者”を募集しております。

まずは、集落内に「湧き水」が溢れ出る中野集落の小さな空き家を改修し、移住者に仮居住してもらうため、地域の方々の協力を得て、当プロジェクトを立ち上げました。

また、空き家改修のノウハウをマニュアル化し、全国で空き家を何とかしたいと思っている方々の手引書として活用してもらいたく、加えて改修後の空き家には、地域行事にも積極的に参加する移住希望者を迎え入れ、コミュニティ機能の維持や発展に貢献してもらうことに期待しています。

③ 古民家を若者の就業支援拠点
として改修



事業者 : あいとうふくしモール運営委員会
事業地 : 滋賀県東近江市小倉町
助成年度 : 平成28年度
C F調達額 : 1,342千円
ファンド支援 : 1,278千円

少子高齢化が進む愛東地区において、集落内にある空き家であった古民家を確保し、地元の若者の就業支援を行う「あいとうふくしモール」の拠点として、また地元食材の加工販売を行う施設として「ほんなら屋」を整備しました。

当該施設では、高齢化の進む地域を盛り上げ、働くことへの不安を抱える若者が挑戦できる場所として、地元産のお米で握るおにぎり「あいとうむすび」の開発、それに付随する漬物などの加工販売を行っております。

また、施設に隣接した農場で、社会に出ることに不安を感じている若者たちが、季節に合わせた野菜づくりも行っています。

ファンドの概要

支援年度	平成27年（2015年）
事業主体	(公財)名古屋まちづくり公社
助成対象地域	名古屋市
目 的	クラウドファンディングにより広く資金を募り、歴史的建造物の保存活用を図ることにより、身近に歴史が感じられるまちづくりの推進を目的とする。
助成の対象となる主な事業	「歴史的建造物の保存活用（飲食店への改修等）」に関する事業
ファンドの資金規模	2,000万円（名古屋市1,000万円、機構1,000万円）

【助成対象地域】名古屋市



【具体的な事業例】

出典：地理院タイル（標準地図）に事業対象エリア等を追記して記載

- ① 江戸時代からの街並みが残る重伝建の有松で、築100年の空き家をカフェに再生

事業者：特定非営利法人コンソーシアム有松鳴海紋
事業地：名古屋市緑区有松
助成年度：平成28年度
CF調達額：5,066千円
ファンド支援：4,937千円

江戸時代から継承される街並みが残る有松で、築100年以上の歴史的建造物を取り壊し、駐車場にする計画がありましたが、市役所からの要望により建物の利活用を検討、有松絞りのライブラリーカフェとして再生しました。

現在は、観光客と街の人が気軽に立ち寄って集まり、伝統産業「絞り」を通して交流できる場として賑わっています。当該建物は明治から大正時代の日本が豊かな時代に建てられたもので、建物本来の美しい姿を磨き上げています。

更に、名古屋工業大学の学生と共同で日本本来のバランスの良い美しさを現代的なフォルムと融合させ、有松絞を使用した照明や音楽映像などもインテリア計画の中に取り入れ、活きた歴史的建造物のモデルケースとして保存活用できるように設計されました。古くて新しい街、有松にて、官・民・学の連携プロジェクトが行われました。



② 大正時代の洋館を改修・交流拠点として活用



事業者 : 特定非営利活動法人 堀川まちネット
事業地 : 名古屋市熱田区
助成年度 : 平成29年度
C F調達額 : 1,251千円
ファンド支援 : 1,249千円

大正時代に建てられた旧魚半別邸洋館（名古屋で初期の鉄筋コンクリート住宅）を改修し、イベント等の観光情報をご案内する「宮の駅観光案内所」や「交流サロン」、また、「NPO法人堀川まちネット」の活動拠点として活用されています。

当施設は、東海地域では最古の鉄筋コンクリート構造の建物である可能性があり、名古屋市の「登録地域建造物資産」にも認定されているこの歴史的な価値のある建造物を次世代へ遺していくために、当プロジェクトがスタートしました。

今後、この歴史的建造物を利用した様々な体験型学習を提供する人、体験したい人を結ぶプラットフォームを創ることを目指すとともに、この活動を通じて熱田の魅力、日本の歴史・文化の魅力を伝える「語り手」を増やしていくことで、継続的に熱田の魅力を伝える発信拠点となることが期待されています。

③ 歴史的価値の高い四間道エリアの街並み保存・改修



事業者 : 株ナゴノダナバンク
事業地 : 名古屋市西区
助成年度 : 平成30年度
C F調達額 : 5,020千円
ファンド支援 : 4,983千円

歴史的価値の高い四間道エリアの街並み保存を目的とし、古くから続く長屋の一部を改修し、マンションや新築の建物では味わえない潤いを感じる住居で生活できる建物に改修しました。

今回のプロジェクトは、四間道エリアの一角にある古民家を解体し駐車場にする計画について、地域住民をはじめ行政からも保存できないかとの声があがり、所有者との話し合いの結果、従前用途である住居として整備。

古くから残る街並みに思い入れを持つ住民と共に、古い建物を改修するだけではなく、人的交流があり、住む人達が愛着を持ち続けられるように街を育てていくことを目的に、その第一歩となる“街を守り・維持していく”ためのプロジェクトとして実施しました。

④ 古民家改修による地域の活動拠点整備



事業者 : 特定非営利活動法人 K I Z U R I 中小田井
事業地 : 名古屋市西区
助成年度 : 令和3年度
C F調達額 : 4,232千円
ファンド支援 : 4,171千円

中小田井町並み保存地区は、旧岩倉街道沿いに位置し、町家等の歴史的建造物が消えつつある中、歴史的建造物の保存活用が望まれているエリアとなっています。

本事業では、明治29年に建てられた歴史的建造物の民家を、カフェ及び集会所を備えた地域の活動拠点として改修しました。

これまで当地区には拠点となる施設がありませんでしたが、本施設は、町を訪れる人や地元の人に、中小田井の歴史や地域性に触れながら気楽に立ち寄り、集まったりすることができる場所として活用されています。併せて、これまであまり知られていなかった、当地区の魅力発信への貢献も期待されています。

【4】上天草市まちづくり事業推進基金【住民参加型(CF活用型)】

ファンドの概要

支援年度	平成28年（2016年）
事業主体	上天草市
助成対象地域	上天草市
目 的	自然や歴史、文化、農林水産物を活かした地域づくりやコミュニティ活動など民間の自発的なまちづくりを支援することにより、地域の活力向上や多様な交流の促進を図る。また、地域の様々な課題解決の活動拠点を整備することにより、地域の活性化と生きがいを持って暮らす地域づくりを推進する。
助成の対象となる主な事業	・ 地域資源を活用したまちづくりと交流促進に資する事業 ・ 交流人口の増大によるまちの活性化に資する事業 ・ 地域コミュニティの活性化に資する事業
ファンドの資金規模	2,000万円（上天草市1,000万円、機構1,000万円）

【助成対象地域】上天草市



出典：地理院タイル(標準地図)に事業対象エリア等を追記して記載

【具体的な事業例】

- ① 空き家を活用した観光情報発信拠点となるカフェの整備

事業者 : 湯島・夢の島づくり会青年部
 事業地 : 上天草市湯島
 助成年度 : 平成30年度
 CF調達額 : 811千円
 ファンド支援 : 589千円

湯島には食事場所や観光施設が少なく、観光客に島の魅力を伝える力が足りていなかったため、空き家を使った“湯島の情報発信できる観光拠点となる「ねころびカフェ」を整備。

湯島は“猫の島”と呼ばれるほど猫が多く、猫目当ての観光客も増えていますが、島の経済活性化やリピーター獲得につながっていないことが課題でした。

そこで「湯島プロジェクト」による事業化を検討。当プロジェクトは、熊本大学の学生と島民、地域おこし協力隊、行政の方々と力を合わせ、湯島の魅力を発信し、島の経済活性化につなげる取組みを行っております。

当該施設の整備に際し、島民の方々と“島の活性化を考えるワークショップ”を開催し、当プロジェクトを立ち上げました。



② 地区の文化伝承の拠点となる
相撲場の整備



事業者 : 下桶川地区まちづくり委員会
事業地 : 上天草市龍ヶ岳町
助成年度 : 令和3年度
C F調達額 : 2,505千円
ファンド支援 : 2,500千円

下桶川地区では、古くから伝わる「赤ちゃんの泣き相撲」を毎年旧暦6月28日に「夏祭り」として開催してきました。この「夏祭り」の準備等を通じて地区の住民同士の絆が強まり、信頼関係や共同意識の形成に大きな役割を担ってきました。

しかし、地区の過疎化・少子高齢化に加え、当該相撲場が地区の中心地から離れている場所にあるため住民が集まりにくくなったこと、更に既存の相撲場が老朽化で危険な状態になったことから、「夏祭り」の伝承が難しくなってきました。

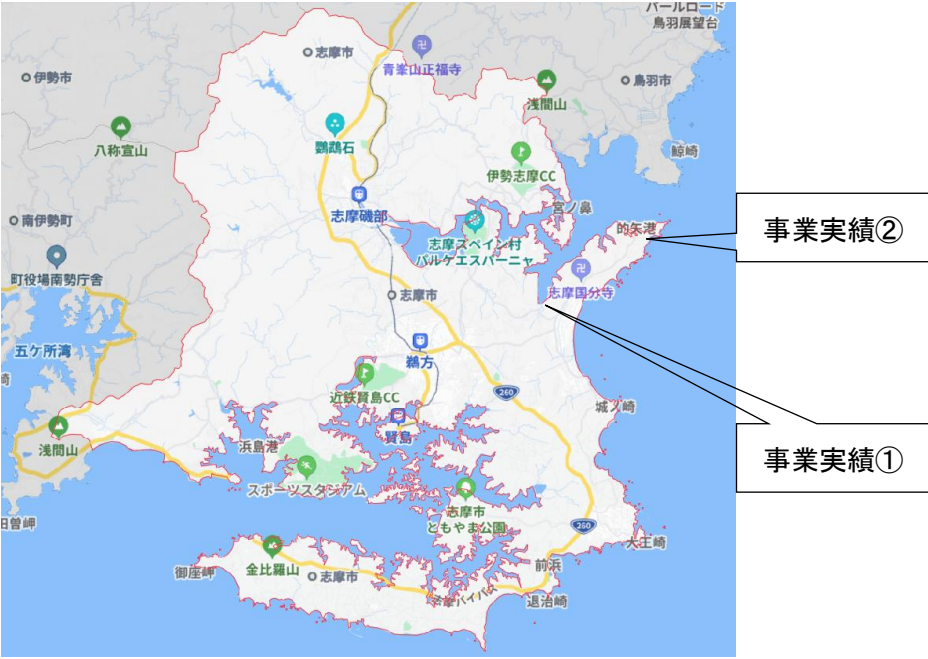
このことから本事業では、住民にとって利便性の良い、地区の中心地に近い場所に新たな相撲場を整備し、赤ちゃんの泣き相撲を含む「夏祭り」等を次世代に伝承する拠点づくりを行いました。

【5】志摩市まちづくりクラウドファンディング活用支援基金【住民参加型（CF活用型）】

ファンドの概要

支援年度	平成28年（2016年）
事業主体	志摩市
助成対象地域	志摩市
目 的	民有地が90%を占める伊勢志摩国立公園に市内全域が指定されており、民間主導による地域の特性（国立公園内）を活かした観光まちづくり事業や景観まちづくり事業等を支援することにより、地域の活性化を図る。
助成の対象となる主な事業	・景観まちづくり事業 ・環境まちづくり事業 ・多世代交流拠点づくり事業 ・まちの賑わい復活事業
ファンドの資金規模	1,000万円（志摩市500万円、機構500万円）

【助成対象地域】志摩市



【具体的な事業例】

① 外国人向けゲストハウスの改修



事業者：伊勢志摩ゲストハウスたこのすけ
事業地：志摩市阿児町
助成年度：平成30年度 **C F調達額**：880千円 **ファンド支援**：820千円

オーナーの夢である“たこ焼きを世界に広めるため”にたこ焼き職人を育成するゲストハウスを開設しましたが、ウッドデッキが老朽化により朽ちていました。
 当該ゲストハウスは、山の中に立地しているため、BBQの需要が多く、夜には星空観測も楽しめるため、屋外での楽しみ方は都会からの旅行者やインバウンドに特に人気があり、また、特に欧米人の旅行スタイルは、外でのんびりと過ごすことが多く、ウッドデッキが必要なことから改築を行いました。

② グランピング施設の整備



事業者：(株)Into The Wild
事業地：志摩市阿児町
助成年度：令和5年度 **C F調達額**：5,000千円 **ファンド支援**：4,994千円

志摩市は、地域の特色を生かした観光業が主な産業となっていますが、コロナ禍による旅行需要の減少や、社会構造の変化等により、厳しい状況が続いています。
 地域の課題解決につながる取組として、安乗崎に近く、美しい海岸線の近傍である立地を生かした、1日1組限定のグランピング施設を整備、開業し、地域の特色あるロケーションを活用した滞在と地元食材の提供等により、幅広い年代をターゲットにし当地域の魅力を発信していきます。

【6】地域活性化施設等整備基金【CF活用型】

ファンドの概要

支援年度	平成29年（2017年）
事業主体	瑞浪市
助成対象地域	瑞浪市
目 的	主要な街道であった中山道の宿場周辺では、人口流出と空き家の増加により歴史的重要な景観が維持できなくなっており、住民のまちなみ保存意識の醸成と取組みを促進し、景観形成に資する建築物の改修や景観保全施設の整備により地域の活性化を図る。
助成の対象となる主な事業	・美しい街並み景観整備事業 ・にぎわい創出施設整備事業
ファンドの資金規模	2,000万円（瑞浪市1,000万円、機構1,000万円）

【助成対象地域】瑞浪市



【具体的な事業例】

- ① 古民家を地域住民や観光客を対象にしたカフェに改装



- ② キャンプ場のセンターハウスとなる古民家の改修



事業者：個人 事業地：瑞浪市大湫町
助成年度：令和3年度 CF調達額：1,279千円 ファンド支援：1,000千円

大湫（おおくて）宿は、かつての中山道47番目の宿です。旧森川善章家住宅は、旅籠としても使用されました。建物は明治26年の建築とされ、明治期の民家としての面影を良く残しています。貴重な建物であることから、国登録有形文化財として登録されています。

本事業では、この旧森川善章家住宅を、地域住民や観光客を対象とした古民家カフェに改装しました。大湫宿には、これまでお茶を飲んだり食事をする場所が無かったことから、カフェのオープン後は多くの地域住民や観光客に利用されています。

事業者：（一社）全国高齢者食育協会 事業地：瑞浪市日吉町
助成年度：令和5年度 CF調達額：10,106千円 ファンド支援：5,000千円

障がい者の方とともに、自分たちの手で市内にキャンプ場を作り、運営していく事業です。事業者は普段、就労継続支援B型事業所で障がい者の方の就労支援をおこなっており、本キャンプ場は、障がい者の方たちが地域貢献の達成感を得ることができる働き場所を提供します。

働き場所を求めている人材と、使われていない資源を使い、障がい者の雇用問題、空き家問題を同時に取り組むことができる事業です。

③ 空き地を活用した、瑞浪市の
魅力を伝えるパン屋の創業

事業者 : (株)東美濃ビアワークス 事業地 : 瑞浪市釜戸町
助成年度 : 令和7年度
C F調達額 : 11,442千円 ファンド支援 : 4,057千円



瑞浪市の地域資源を生かしたパン屋を開業するため、空き地を利用して店舗を整備する事業。事業対象者は、岐阜県東農地方ならではの副原料を使用したクラフトビールの醸造・販売を通じて、地域の魅力発信及び関係人口・交流人口の創出に取り組んでいる。

事業者の強みであるクラフトビールとパンを組み合わせることで、相乗効果を生み出し、地域の賑わい創出及び瑞浪市の魅力発信を図ることを目的としている。

ファンドの概要

支援年度	平成30年（2018年）
事業主体	（公財）小松市まちづくり市民財団
助成対象地域	小松市・伝統的景観重点地区及び地方主要道金沢美川小松線周辺地区
目 的	市民団体やNPO法人等民間の様々な団体が行う、創意工夫を重ね継続性を意識したまちづくり事業を支援することにより、地域の活性化を図る。
助成の対象となる主な事業	空き家・空き店舗再生事業
ファンドの資金規模	2,000万円（小松市1,000万円、機構1,000万円）

【助成対象地域】伝統的景観重点地区及び地方主要道金沢美川小松線周辺地区



出典：地理院タイル（標準図）に事業対象エリア等を追記して記載

【具体的な事業例】

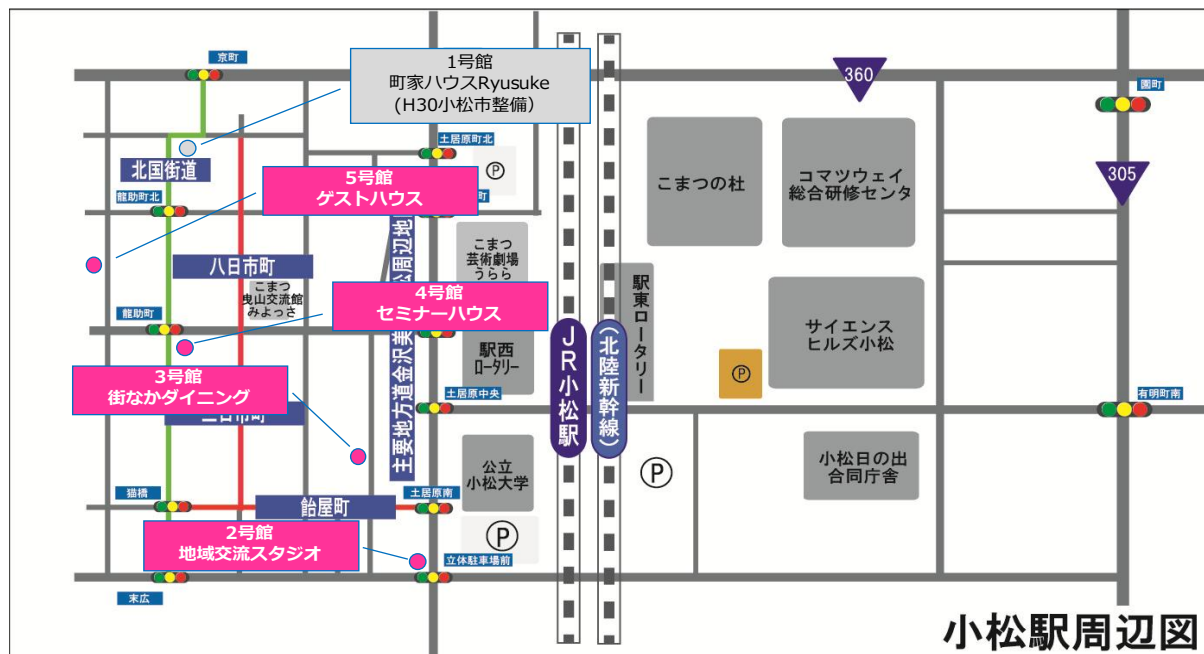
① 空き家・空き店舗を活用した学生・地域住民の交流施設等の整備

事業者：（株）こまつ賑わいセンター
 事業地：小松市末広町
 助成年度：令和元年度
 CF調達額：20,000千円
 ファンド支援：20,000千円

平成29年小松駅前にホテル・商業施設・大学キャンパス・行政施設からなる複合ビル「こまつアズスクエア」が完成し、平成30年4月には駅前に「公立小松大学」が開校しました。

駅前拠点施設の開業や大学の開校などにより多くの人々が小松駅前に集うようになりましたが、街に活力やエネルギーを与える学生が交流する飲食施設、留学生などと交流し滞在できる宿舎、地域住民との交流施設などの環境整備が遅れていました。

このプロジェクトでは、空洞化が目立ちはじめた商店街の空き家や空き店舗をリノベーションし、学生や地域の方々の交流・いこいの場を再整備することで、「にぎわいのある街」創り出すことを目指しています。



小松駅周辺図

2号館(地域交流スタジオ)

閉院した歯科医院を改修し、公立小松大学のゼミ及びキャンパスとして活用



3号館(街なかダイニング)

空き店舗を改修し、学生や地域住民が気軽に立ち寄れる本場インドカレー店に



4号館(セミナーハウス)

空き家を改修し、公立小松大学のゼミ及びキャンパスとして活用



ファンドの概要

支援年度	令和元年（2019年）
事業主体	うきは市
助成対象地域	うきは市・重点伝統的建造物群保存地区及びその周辺地区他
目 的	市民団体やNPO法人等民間の様々な団体が行う、創意工夫を重ね継続性を意識したまちづくり事業を支援することにより、地域の活性化を図る。
助成の対象となる主な事業	・重点伝統的建造物群保存地区のまちなみの保存 ・古民家等の改修事業公的遊休施設を活用したにぎわいの場づくり事業
ファンドの資金規模	4,000万円（うきは市2,000万円、機構2,000万円）

【助成対象地域】重点伝統的建造物群保存地区・公的遊休施設



出典：地理院タイル（標準図）に事業対象エリア等を追記して記載

【具体的な事業例】

- ① 公園内の遊休施設を改修し、コミュニティカフェとして再生



事業者：(株)ノーブル 事業地：うきは市吉井町
助成年度：令和5年度
CF調達額：5,000千円 ファンド支援：5,000千円

吉井百年公園内の遊休施設を改修し、地域コミュニティの維持や、地域の活性化に貢献できるコミュニティカフェとして再生する。またカフェや飲食のほか、ワークショップや企業研修としての場としても活用を行います。

子育て世代に向けた公園利用の訴求やワークショップを通じた青少年の育成が期待できる。また併設しているグランピング場と併せて市外の観光客やインバウンド層の入込が予想されます。

- ② 農民劇団創設者の生家跡地を利用してカフェやイベント会場に整備



事業者：うきは「小麦」活性化プロジェクト
事業地：うきは市浮羽町 助成年度：令和7年度
CF調達額：3,523千円 ファンド支援：3,277千円

「うきは産小麦」の発信場所として、日本最初の農民劇団を創られた安元医師の生家跡から小麦文化をつなぐ活動を行うもの。

整備費用として取り組みをスタートし、人の集まる場所とすることを第一にして、常設店舗、イベント広場を予定し、小麦文化とともに後世に伝える役割も果たす。

ファンドの概要

支援年度	令和元年（2019年）
事業主体	瀬戸市
助成対象地域	瀬戸市中心市街地
目 的	文化的・歴史的景観を守りつつ、まちなみを保全する事業や空き家・空き店舗を改修し、「せともの」の作り手の活用拠点となる施設整備を通じて、近年人口減少や空き家・空き店舗の増加がみられる中心市街地の活性化を図る。
助成の対象となる主な事業	・まちの魅力向上に資する事業 ・景観形成に資する事業 ・空き家・空き店舗等の利活用に資する事業
ファンドの資金規模	2,000万円（瀬戸市1,000万円、機構1,000万円）

【助成対象地域】 瀬戸市中心市街地



出典:地理院タイル(標準地図)に事業対象エリア等を追記して記載

【具体的な事業例】

- ① 窯元の資料館を、瀬戸のやきもの文化の保存・伝承等を目的とする複合施設に再生



事業者 : (資)瀬戸本業窯 事業地 : 瀬戸市東町
助成年度 : 令和3年度 C F調達額: 5,413千円 ファンド支援: 4,588千円

瀬戸市の洞地区は、江戸時代後期からの薪を燃料とした「登り窯」が現在も建ち、「窯垣の小径」という名所もある観光客に人気の場所です。

本事業では、当地区にある約250年続く窯元の瀬戸本業窯の資料館を、建物の老朽化と来訪者の増加に対応するため、瀬戸のやきもの文化の保存・伝承・活用・発信・体験を目的とする複合施設【瀬戸・ものづくりと暮らしのミュージアム（瀬戸民藝館）】に再生しました。

事業後は、活きた歴史的建造物のモデルケースとして建物を保存活用するとともに、そこから地域の歴史と文化を発信して地域の魅力向上につながるよう活用予定です。

② 景観重要建造物に指定された
築100年の古民家を文化施設に
改修



事業者 : 個人 事業地 : 瀬戸市仲洞町
助成年度 : 令和6年度
C F調達額 : 4,173千円 ファンド支援 : 3,827千円

「窯垣の小径」の主要な場所に建つ古民家。日本の工芸を中心に紹介し、展示と販売やイベント企画を主な事業として、訪問客へ工芸の魅力と併せて、窯垣の小径の魅力を全国や海外へ伝え広めることを目指します。

また、施設を通じた瀬戸の工芸文化の活性化は、地域の魅力を高め、観光客や訪問客を引き寄せることができます。それに伴い、地域の観光や商業活動が活発化し、経済的な波及効果をもたらすことも期待できます。

③ 明治から続いた金物屋をギャ
ラリーや陶芸教室や茶道体験
ができる施設に改修



事業者 : 個人 事業地 : 瀬戸市東本町
助成年度 : 令和6年度
C F調達額 : 1,903千円 ファンド支援 : 1,297千円

地域の商店とも連携し、商材を活かして作陶や陶芸教室を行うことで、地域活性化につなげていきます。

また、ギャラリーとすることで、近隣にある施設や商店街などへの街巡りを促し、地域の賑わい創出に貢献していきます。併せて、これまでの茶道具の貸し出しを通して、名古屋の市民茶会の団体や行政と連携しており、この連携関係を活かし、この建物での茶道体験への集客を地域へと波及させていきます。

ファンドの概要

支援年度	令和2年（2020年）
事業主体	佐伯市
助成対象地域	佐伯市中心市街地
目 的	城下町などの歴史的な街なみを保持しつつ、市街地エリア内の遊休不動産を利活用し、観光客や市民の憩う場として、また交流人口の増加や新たな賑わいを生み出す施設の整備等、地域の課題解決や活性化に寄与すると認められる「市民主体のまちづくり事業」を支援する。
助成の対象となる主な事業	・ 公共施設を活用した交流拠点施設整備に関する事業 ・ 景観形成に関する事業 ・ 賑わい形成プロジェクト ・ 空き地等を活用した交流拠点整備に関する事業
ファンドの資金規模	1億円（佐伯市5,000万円、機構5,000万円）

【助成対象地域】佐伯市中心市街地



【具体的な事業例】

① まちの賑わい・コミュニティを創出する日本茶カフェの整備



事業者：(有)鶴見園 事業地：佐伯市船頭町
助成年度：令和3年度
CF調達額：4,872千円 ファンド支援：4,872千円

中心市街地の城下町地域は、藩政時代から佐伯藩2万石の城下町として栄え、その風情を現在まで残している地域です。

本事業では、中心市街地の核となる「さいき城山桜ホール」の近隣の空き店舗を、日本茶カフェとして改修しました。

当カフェは創業50年以上の日本茶専門店が運営し、日本人が昔から大切にしてきた、縁や会話そして空間を「お茶」でつなぐことにより、世代を問わず人が集い、くつろぎ、憩う場所となっています。

中心市街地ではこのような場所のニーズが高く、当カフェにより新たな賑わいの創出につながっています。

② 空き店舗を改修して体験型ワークショップができる花屋を開業

事業者：ANIMA 事業地：佐伯市内町 助成年度：令和7年度
CF調達額：2,623千円 ファンド支援：2,477千円

「花を売る」のではなく、「花と共にある暮らしを提案する」ライフスタイル提案型の花屋。ワークショップ体験や季節催事を通じた地域との交流や文化発信を行うため、中心市街地城下地エリアの空き店舗を改修して開業し、花の販売だけではなく、体験型ワークショップや季節催事を通じた取組を実施することにより、地域における「日常的に花のある暮らし」を波及させ、地域住民の心の豊かさに寄与している。



ファンドの概要

支援年度	令和3年（2021年）
事業主体	足利市
助成対象地域	足利市中心市街地から足利東部地区
目的	交流人口・定住人口の増加、新たな賑わいの創出など、地域の活性化に向けたまちづくりの推進
助成の対象となる主な事業	・ まちなみの保全・景観形成に資する事業 ・ 遊休不動産を活用し、まちのにぎわい・コミュニティを創出する事業 ・ 地域の課題解決や活性化に寄与する事業 ・ その他、まちの魅力向上に資する事業
ファンドの資金規模	1,000万円（足利市500万円、機構500万円）

【助成対象地域】足利市中心市街地から足利東部地区



【具体的な事業例】

閉校した小学校を、地域の文化・芸術の発展に寄与する小さな美術館として再生



事業者：（一財）おもい・つむぎ財団
 事業地：足利市大久保町
 助成年度：令和3年度
 CF調達額：4,995千円
 ファンド支援：2,500千円

本事業は、戦前に建てられ、平成16年に閉校した小学校の旧分校を、美術館として活用するため、改修したものです。

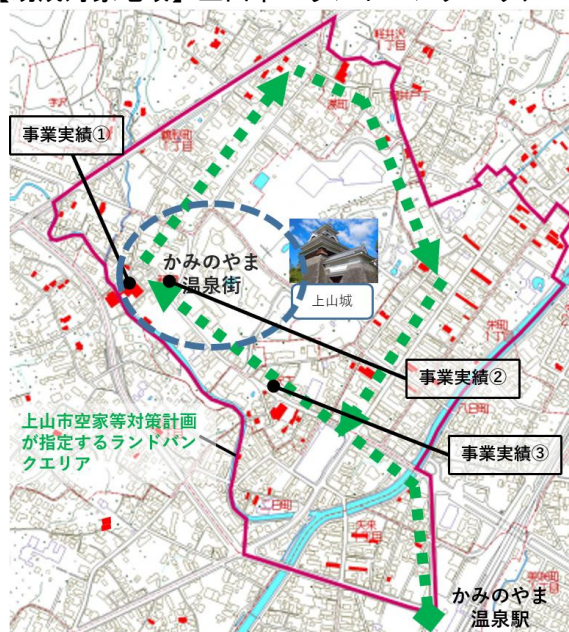
当施設は、展示室以外に工房やカフェも設けられており、若手アーティストに表現の場を提供するとともに、地域の学校や教育機関とも連携し、絵画教室の開催や課外活動受入れ等の活動を行います。

この活動により、地域の文化・芸術の発展に寄与することが期待されています。

ファンドの概要

支援年度	令和3年（2021年）
事業主体	特定非営利活動法人かみのやまランドバンク（都市再生推進法人）
助成対象地域	第2期上山市空家等対策計画（令和2年3月）に基づくランドバンクエリア
目的	人口流出を抑制し居住誘導を図るため、若者や子育て世代に人気のある飲食店などの空き家リノベーションをしやすい環境づくりを進め、賑わいの創出、子育て世代の定住促進、交流人口の増加などを目的とする。
助成の対象となる主な事業	・ 空き家改修事業（かみのやま温泉駅前周辺の空き店舗リノベーション） ・ 旧映画館再生事業（旧映画館跡地周辺に居住する者向けの交流空間の整備） ・ 共同浴場再生事業（かみのやまランドバンクによる旧澤の湯（共同浴場）リノベーション）
ファンドの資金規模	1,000万円（上山市他500万円、機構500万円）

【助成対象地域】上山市・ランドバンクエリア



【具体的な事業例】

① 廃業した公衆浴場「澤のゆ」再生



事業者：NPO法人かみのやまランドバンク
 事業地：山上市新湯 助成年度：令和4年度
 CF調達額：3,114千円 ファンド支援：3,114千円

長年、地域の風呂として親しまれてきた混戦公衆浴場だが、時代の変化により、利用者も減少し、老朽化補修もできずに、廃業しました。それを再び地域住民や観光客誘致のために再生させました。

これにより、街中を周遊する人も増え、2階の休憩室を利用した各種イベント企画も生まれるなど、新たになぎわいとコミュニティ創出の場となっています。

② 温泉街の中心地の空き店舗をお好み焼き店に改修



事業者：個人 事業地：山上市新湯
 助成年度：令和6年度
 CF調達額：1,714千円 ファンド支援：1,000千円

温泉が建ち並ぶ一角、飲食店も少なく寂しい感じの温泉街となっている上山。

事業者の居住地は上山市でしたが山形市内にて10年程度「お好み焼き屋」を営んでおり、子供の成長と共に地元貢献と沈んでいるまちを賑やかにしたいという思いで移転を決意。

③ 八百屋閉店後に住居、その後に空き家となっていた建物をコーヒースタンドに改修



事業者：個人 事業地：山上市沢丁
 助成年度：令和6年度
 CF調達額：1,055千円 ファンド支援：1,000千円

かみのやま温泉街の中心部的かつての繁華街。以前は店舗（八百屋）だったが閉店し居住用となり持主が亡くなり空き家へ。もう一度店舗として利活用し、温泉街のにぎやかさを取り戻すべく地元の人というより若者や外部の観光客の流動性、交流性を高めながら、ちょっと諦めがちな地元の方のキャンフル剤とする事業。

【13】前橋市アーバンデザインファンド【共助推進型】

ファンドの概要

支援年度	令和4年（2022年）
事業主体	前橋市
助成対象地域	前橋市アーバンデザイン策定区域（前橋市中心拠点地区内）
目 的	前橋市アーバンデザインの実現に向けた市に芽吹きつつある民間の資金による民間団体の活動を積極的に支援する仕組みを作り、さらに多くの市民や企業が参画する民間主体のまちづくりを持続・発展させる
助成の対象となる主な事業	・ まちなみや施設の整備によるまちなかの居心地の良さ向上に資する事業 ・ 遊休不動産を利活用し、まちの賑わいを創出する事業 ・ その他、まちの魅力向上に資する事業
ファンドの資金規模	2億円（前橋市1億円、機構1億円）

【助成対象地域】前橋市アーバンデザイン策定区域（前橋市中心拠点地区内）



【具体的な事業例】



馬場川（ばばっかわ）プロジェクト

事業者：（一社）前橋デザインコミッション都市再生推進法人
 事業地：前橋市本町
 助成年度：令和4年度、令和5年度
 助成対象事業費：262,889千円
 ファンド支援：200,000千円

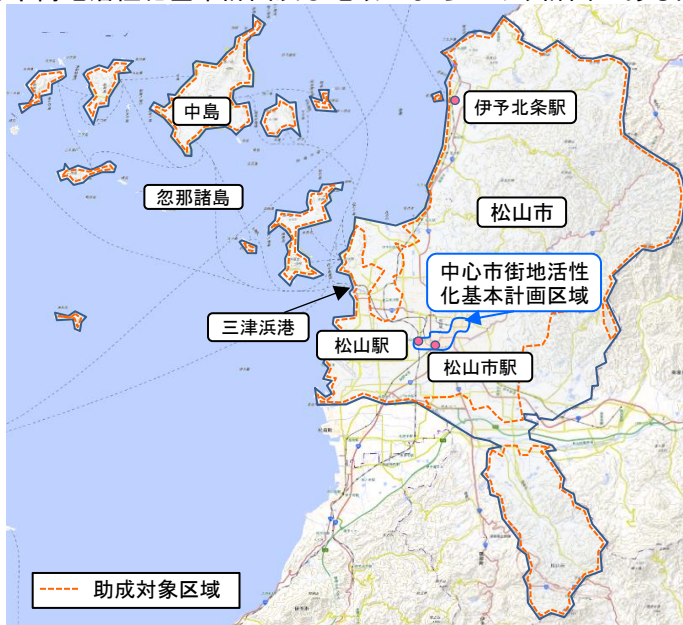
馬場川通りにおける車道の高質化整備、遊歩道公園の親水化整備等により、居心地の良い歩いて楽しい空間を創出します。

前橋市では、民間主体の官民連携まちづくりにより中心市街地の価値を高める必要があることを認識し、令和元年に策定した前橋市アーバンデザインを掲げたまちづくりに取り組んでいます。そこで、アーバンデザインの実現に向けて民間団体の活動を積極的に支援する仕組みを作り、さらに多くの市民や企業が参画する民間主体のまちづくりを持続・発展させるため、前橋市アーバンデザインファンドを創設しました。当ファンドの活用により、都市利便増進協定等に基づいて市民や民間事業者が行う、まちなみの整備や滞在快適性向上のための施設整備及び整備後の管理・運営に関する事業を支援することにより、民間主体のまちづくり活動の自立性・継続性を高め、地域の活性化を推進します。

ファンドの概要

支援年度	令和4年（2022年）
事業主体	松山市
助成対象地域	「たからみがき」のまちづくり関連区域 （中心市街地活性化基本計画及び地域のまちづくり計画がある区域等）
目 的	歴史的建造物の保存、中心市街地におけるウォークラブルなまちづくりの推進及び地域におけるまちの魅力向上の課題に対する民間のまちづくり活動を支援することにより、松山市の魅力や強みを活かした「たからみがき」のまちづくりによる、21世紀にふさわしい個性ある日本一のまちづくりを推進する。 クラウドファンディングの導入により、まちづくり事業の発信とともに、まちづくりへの新たな人々の参画を促進する。
助成の対象となる主な事業	・歴史的建造物の保全・改修 ・ウォークラブルなまちづくりに資する店舗等の整備 ・まちの魅力向上に資する施設の整備
ファンドの資金規模	3,000万円（松山市1,500万円、機構1,500万円）

【助成対象地域】「たからみがき」のまちづくり関連区域
（中心市街地活性化基本計画及び地域のまちづくり計画がある区域等）



出典：地理院タイル（標準地図）に対象エリア等を追記して記載

【具体的な事業例】

① 道後結匠庵（ゆうしょうあん）保存改修



事業者：個人 事業地：松山市道後町
助成年度：令和5年度 CF調達額：3,016千円 ファンド支援：2,984千円

道後温泉本館よりも以前に建築された古建築で、当時の建築様式の趣を色濃く残しており、主屋の老朽化に伴う修復及び、傾きかけた土塀の修復工事を行いました。

これにより、道後温泉本館と同時期の建築様式と風情ある街並みや歴史を後世に繋ぐだけでなく、建物の利活用により、地域の活性化と賑わいづくりに寄与することが期待されます。

② 中島大浦堀内邸ファサード改修



事業者：個人 事業地：松山市中島大浦
助成年度：令和5年度 CF調達額：2,102千円 ファンド支援：1,947千円

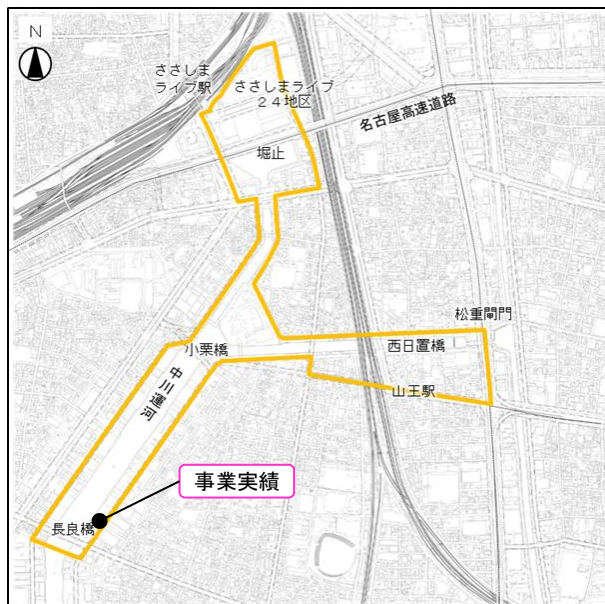
中島の元商店街の中心に位置する建物を改修し、島内外の人々が交流できるスペースの整備や島内産品の加工・販売、現代芸術家の作品の展示ギャラリー等として活用します。

これにより、新たな回遊性を生む地域の活性化拠点となることが期待されます。

ファンドの概要

支援年度	令和5年（2023年）
事業主体	（公財）名古屋まちづくり公社
助成対象地域	中川運河にぎわいゾーン地区内のまちなかウォークアブル区域（水面を含む）
目 的	港と文化を感じる都心のオアシス」の形成に寄与する民間まちづくり事業を通じて、中川運河において魅力的な水辺空間の形成を目的とする。
助成の対象となる主な事業	中川運河の再生に資する都市利便増進協定等に基づく、以下に掲げる事業（当該事業と一体となるソフト事業を含む。） ・「にぎわいゾーン」の景観や施設の整備による居心地の良さの向上に資する事業 ・水面、沿岸等を活用したにぎわいを創出する事業 ・その他、「にぎわいゾーン」の魅力向上に資する事業
ファンドの資金規模	4億4,156万円（名古屋市4億156万円、機構4,000万円）

【助成対象地域】中川運河にぎわいゾーン区域内のまちなかウォークアブル区域（水面を含む）



出典：地理院タイル（標準地図）に対象エリア等を追記して記載

【具体的な事業例】

机、ベンチ等の休憩施設や階段等の通路、安全柵を整備

事業者：富士コーヒー（株）

事業地：名古屋市中区広川町

助成年度：令和7年度

助成対象事業費：10,736千円

ファンド支援：10,000千円

●護岸エリアの開放

今まで安全面の配慮から、関係者以外立入禁止にしていた護岸エリアを誰でも休憩でき、景観を楽しめるよう開放

●護岸エリアでの休憩施設設置

固定式パラソルテーブル及びイスの設置

●護岸エリアの安全策の設置

一般開放するに当たり、安全面を考慮して安全基準に適合す柵を設置

●運河景観スポットの確立

緑化整備、観光スポットとしての水上バスデザインの顔出し記念撮影用イラスト看板の設置等により、自由に入退場できるエリアとして、水辺空間の賑わいを創出

●護岸エリアへの導線設置

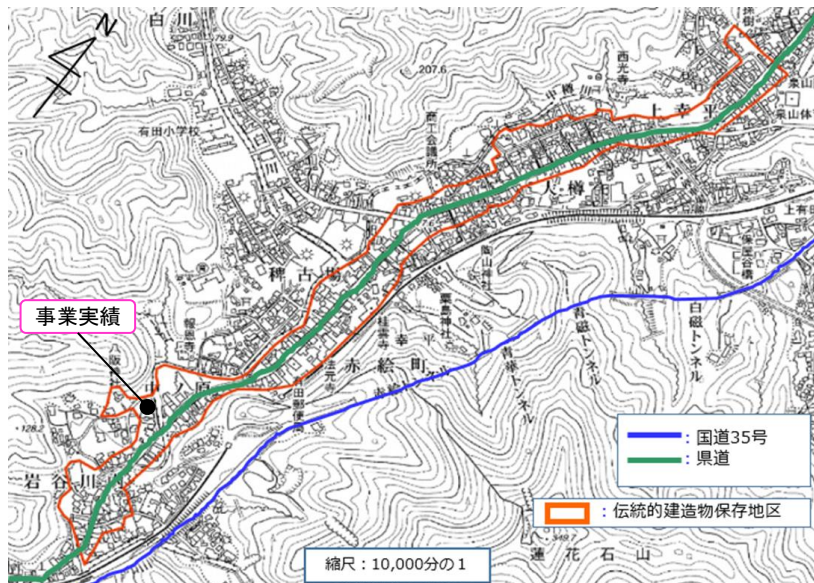
入場用階段の整備（2箇所）。将来的なプロムナード箇所からの入場可能開閉式扉の設置



ファンドの概要

支援年度	令和6年（2024年）
事業主体	有田町
助成対象地域	有田町内山地区の「重要伝統的建造物群保存地区」（15.9ha）
目 的	内山地区の再生と賑わい創出に寄与する民間まちづくり事業の活発化を図り、さらに多くの市民や企業の支援を呼び込み、持続可能な民間主体のまちづくりを発展させる。 ・「製磁町」に象徴される内山地区の町並み・景観を活かした、魅力ある滞留空間・交流拠点の創出 ・交流人口を増やす収益力・雇用促進力のある宿泊事業、高付加価値飲食業、体験コンテンツ事業の開発
助成の対象となる主な事業	有田町内山地区都市利便増進協定に基づく、対象地区における関係人口創出、にぎわいの創出、住民が誇れるまち、魅力向上に資する施設の整備事業
ファンドの資金規模	2億円（有田町1億円、機構1億円）

【助成対象地域】有田町内山地区の「重要伝統的建造物群保存地区」（15.9ha）



【具体的な事業例】

大正時代に建てられた古民家の倉庫を宿泊施設に改修



事業者：有田商工会議所

事業地：有田町中ノ原

助成年度：令和7年度

助成対象事業費：16,234千円

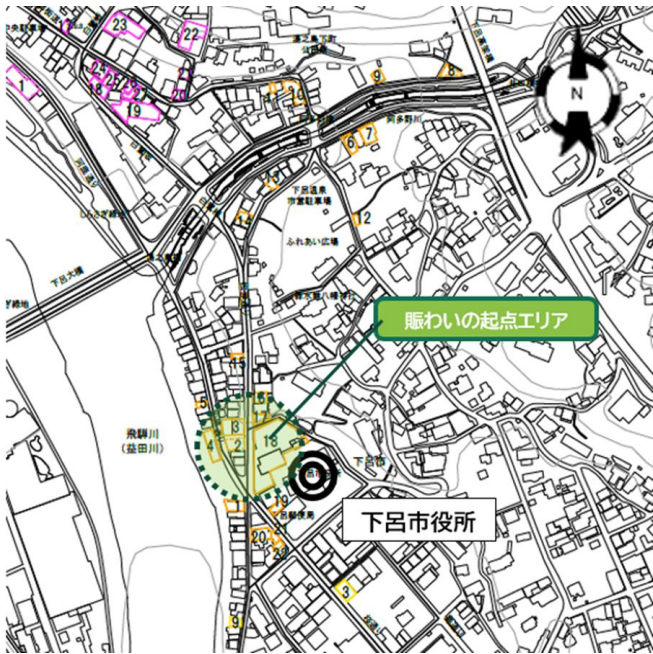
ファンド支援：16,234千円

大正時代に建てられた古民家の倉庫を活用し、1階が飲食、2階を宿泊施設に改修した。バックパッカーなどが滞在し交流できるように1階を共用キッチンやラウンジ（共用スペース）、2階を解放感のある共有相部屋へ改築。

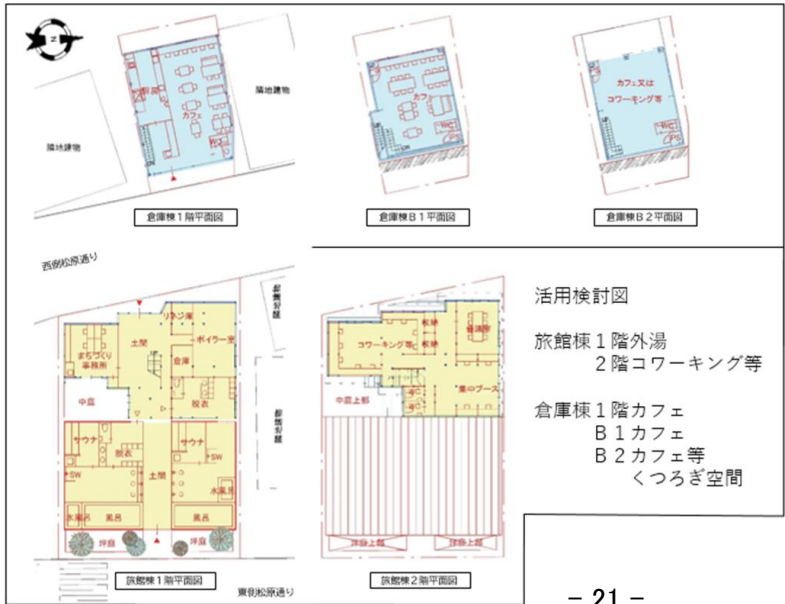
ファンドの概要

支援年度	令和 6 年（2024年）
事業主体	下呂市
助成対象地域	下呂温泉中心市街地地区都市再生整備計画区域内の「賑わいの起点エリア」（1.1ha）
目 的	下呂温泉中心市街地地区都市再生整備計画の「賑わいの起点エリア」における賑わいづくりに向けて、民間事業者の施設整備を支援することにより投資の誘導につなげ、下呂温泉の空き家、空き店舗の活用につなげる。
助成の対象となる主な事業	都市利便増進協定に基づく、「賑わいの起点エリア」における賑わいの創出、下呂温泉の魅力向上に資する施設整備事業
ファンドの資金規模	2億円（下呂市1億円、機構1億円）

【助成対象地域】下呂温泉中心市街地地区都市再生整備計画区域内の「賑わいの起点エリア」（1.1ha）



【具体的な事業例】(イメージ)



【18】西川町すっだいファンド【CF活用型】

ファンドの概要

支援年度	令和7年（2025年）
事業主体	西川町
助成対象地域	旧六十里越街道沿いの空き家が集積するエリア ①生活利便拠点、②都市機能集積拠点、③ワーキング拠点
目 的	旧六十里越街道沿いの再生と賑わい創出に取組むまちづくり事業者に対して、交流人口・関係人口の増加や新たな賑わいを生み出す施設整備等の「町民主体のまちづくり事業」を支援することで、飲食・滞在・宿泊を徒歩圏内で満喫できるエリア形成を実現する。
助成の対象となる主な事業	・観光客や関係人口等の滞在時間増加に資する事業 ・多地域・多世代交流拠点づくり事業 ・空き家等の遊休不動産を活用して地域活性化を促進する事業
ファンドの資金規模	1,000万円（西川町500万円、機構500万円）

【助成対象地域】旧六十里越街道沿いの空き家が集積するエリア



【具体的な事業例】(イメージ)



空き家・蔵をレストラン兼宿泊施設へ



古民家・土蔵を住居・宿泊・飲食からなる複合施設へ



空き家を地域交流スペース付きシェアハウスへ

ファンドの概要

支援年度	令和7年（2025年）
事業主体	神戸市
助成対象地域	都市再生整備計画区域（神戸・神鉄沿線地区）内における神戸電鉄の各駅周辺
目 的	駅を中心とした地域全体の活性化に取り組むため、まちづくりファンドにより駅周辺の空き店舗等の改修を支援し、地域交流拠点やレンタルスペース等として運営することで駅周辺の賑わいづくりの持続化や地域のつながり構築、関係人口の増加を図る。
助成の対象となる主な事業	駅周辺の空き物件等を活用した地域交流拠点の整備
ファンドの資金規模	1,126万円（神戸市626万円、機構500万円）

【助成対象地域】都市再生整備計画区域（神戸・神鉄沿線地区）内における神戸電鉄の各駅周辺



【具体的な事業例】(イメージ)



駅前の空き店舗をレンタルスペースや託児付コワーキングスペース、多世代交流の場として活用しながら、その収益を駅前広場での賑わいイベント経費の一部とすることで、持続可能な地域活性化を図っていく。

◆お問い合わせ先◆

03-5546-0797

一般財団法人 民間都市開発推進機構 まちづくり支援部

〒135-6008 東京都江東区豊洲3-3-3 豊洲センタービル8階

<https://www.minto.or.jp/>

